咲花温泉周辺の「水の恵みマップ」

阿賀野川が育んだ肥沃な土壌と良質な水源に恵まれた、流域の観光資源を紹介します。

水がつくりだす花々

阿賀野川や早出川の水を利用して、ぼたんやチューリップの栽培が盛んに行われています。春から秋にかけて美しい花々が楽しめます。

ふれあい自然の郷水芭蕉公園

毎年3月下旬から4月中旬にかけて、約3万株の水芭蕉が開花します。

村松公園の桜

公園内には約3千本の桜が咲き誇ります。

一本杉のチューリップ畑

毎年4中旬から下旬にかけて、約150万本の色とりどりのチューリップが咲き誇ります。

東公園 ぼたん百種展示園

毎年5月上旬から中旬にかけて、120品種、5千株のぼたんが大輪の花を咲かせます。

水と川が織りなす風景

早出川は雄大な山々の新緑や紅葉が楽しめる渓谷です。早出川ダムをはじめ、ダム周辺にも衣岩や夫婦滝などの見所があり、多くの観光客が訪れます。

また、早出川の支流である仙見川の上流は、川のせせらぎや野鳥のさえずりが聞こえるほど静寂な環境です。一方下流では、夏になると川遊びをする子ども達の元気な声が聞こえてきます。

衣岩(早出川渓谷)

仙見川渓谷

咲花きなせ堤河床

咲花温泉公園の近くに長さ27m、幅8.7mの河床（高床式ウッドデッキ）を設置しました。河床では、鎌まつりや足湯などのイベントを行ったり、各旅館が腕をふるってつくる河床弁当（要予約）を楽しんだりすることもできます。

（写真提供：五泉市、咲花温泉観光協会）

四季の川をめぐる

かつてイザベラ・バードが称賛した風景を味わってみませんか？

通年運航しているので、四季折々の風情を楽しむことができます。

阿賀野川ライン舟下り

咲花温泉に船着き場があり、船でアクセスすることもできます。

おいしい湧水

湧水は昔から生活用水や農業用水として利用されてきました。現在も残っている湧水は、水汲みだけでなく、市民の憩いの場としても利用されています。

どっぱら清水

日本酒の仕込み水を汲む「寒九の水汲み」が行われます。

舌清水湧水の里

小中学生の自然学習の場としても利用されています。

水と暮らすために

早出川ダムは、昭和41、42年の集中豪雨による水害を契機に建設が進められ、昭和55年に完成しました。「洪水調整」「水力発電」「特定かんがい用水」の機能を有しています。

早出川ダム

咲花温泉周辺のイベントカレンダー

1月	中旬	菅名岳寒九の水汲み（いすみの里）	寒九の日（寒の入りから9日目）に、菅名岳の中腹にある通称「どっぱら清水」まで登り、山のくぼみから湧き出る水を汲み、清酒「菅名岳」の仕込みとして使用しています。
2月	上旬	阿賀野川ライン酒の陣（道の駅 阿賀の里）	五泉市をはじめ阿賀野川流域の酒蔵が集まり、各蔵自慢の30種類以上の銘柄の試飲が楽しめます。
4月	上旬～中旬	村松公園桜まつり（村松公園）	公園内には約3千本の桜が咲き誇ります。期間中にはライトアップや各種イベントも行われます。
	中旬～下旬	チューリップまつり（チューリップ畑 一本杉地内）	150万本の色とりどりのチューリップが咲き誇ります。
5月	上旬～中旬	五泉市花木まつり（ぼたん百種展示園 東公園内）	120品種、5千株のぼたんが大輪の花を咲かせます。
6月	中旬	咲花温泉水中花火大会（咲花温泉）	水中で花開く約200発の花火が、阿賀野川の水面を幻想的に彩ります。
9月		咲花温泉水上太鼓フェスティバル（咲花温泉）	祈願太鼓として、阿賀野川水上ステージで雷太鼓の演奏や灯篭流しが行われます。（不定期開催）
10月	中旬	さといもまつり（早出川河原）	五泉の特産品である「角乙女」のいも掘りを体験できます。さといも汁や新米おにぎりなど、五泉の特産品の販売も行われます。
11月	上旬	姫野（ひめの）ぎんなん祭り（黄金の里）	ぎんなんの産地である姫野地区（黄金の里）において、農作物の販売やイベントなどが行われます。

菅名岳寒九の水汲み

村松公園桜まつり

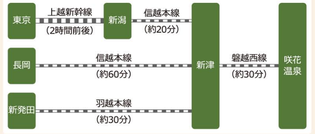
咲花温泉水中花火大会

さといもまつり

地図

アクセス

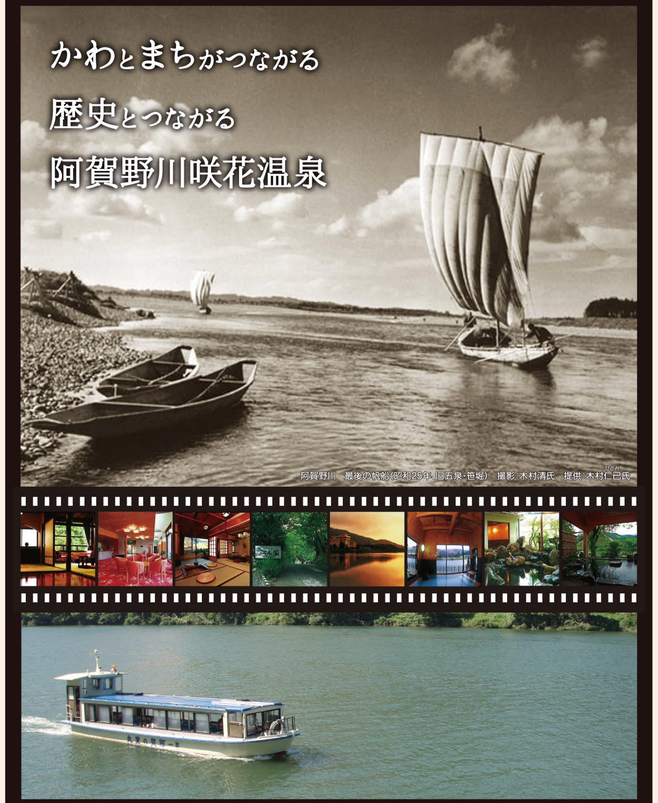
■鉄道をご利用の場合



■車をご利用の場合

【発行元】新潟地域振興局 新津地域整備部　〒956-0031 新潟市秋葉区新津4524-1　TEL0250-24-9674
【問合せ先】咲花温泉観光協会（五泉市役所 商工観光課内）〒959-1692 五泉市太田1094-1　TEL0250-43-3911
咲花温泉旅館協同組合　※お問い合わせは、各旅館へお願いします。

AGANOGAWASAKIHANAONSEN



阿賀野川 最後の航路（咲花区間）「五泉・巻堤」　撮影 木村清氏　提供 木村一巳氏

阿賀野川と咲花温泉

馬下駅付近の風景（1910年頃）

（出典：小竹コレクション）

■江戸～明治期

阿賀野川は古くから舟運が盛んに行われており、明治期までは津川～新潟湊まで多くの川舟が運航していました。

明治期には、イギリスの旅行作家であるイザベラ・バードが、阿賀野川を下った感想を自著「日本奥地紀行」にて「廃墟なきライン川」と書き綴っています。

明治期の定期船の川湊位置図　信濃川　小阿賀野川　阿賀野川

※図説・東蒲原郡史「阿賀の里」（下）P93 旅客乗船賃金表より

昔から阿賀野川川岸から温泉が噴出しており、地元の人々は川岸に近い「つるべ井戸」からお湯を汲んで共同風呂として使用していました。

1954年（昭和29年）	…… 温泉井戸掘削　深度19メートルから温度57度の湯が湧出
1955年（昭和30年）	…… 咲花温泉初の旅館を開業 地名「先鋒」から「咲花」温泉に命名
1956年（昭和31年）	…… 馬下駅～咲花温泉　定期船運航
1961年（昭和36年）	…… 咲花駅開業に伴い定期船廃業
1967年（昭和42年）	…… 8.28水害（羽越水害）　土石流により多くの旅館が被災
1980年（昭和55年）	…… 阿賀野川ライン舟下りが就航
1987年（昭和62年）	…… 咲花川湊（阿賀野川ライン舟下り）開湊
1999年（平成11年）	…… ＳＬ磐越物語号定期運行
2004年（平成16年）	…… 7.13水害　旅館2棟が床上・2棟が床下浸水
2011年（平成23年）	…… 7.30水害　旅館2棟が床上・3棟が床下浸水 「咲花きなせ堤河床」が完成

■温泉開湯前の咲花地区

江戸～明治期は、現在の咲花温泉の場所には川湊も鉄道の駅などもありませんでしたが、1954年（昭和29年）の温泉湧出をきっかけに、何もなかったこの地区に人が集まり始めたのではないかと推測されます。

咲花きなせ堤協議会
森田 会長

昔事に強い巨大な濁流は河との関係性が深まれる恐れがありました。洞峠の温泉地としての情緒を生かしながら、洞ならではの新たな観光空間を創造すべく「かわまちづくり」として検討を重ねてきました。

新たな濁流を「咲花きなせ堤」と親しみを込めて命名し、洞峠、カヤック乗り場、喫茶・軽食・植栽と公園の整備等が、今までにない上に洞も親しめる温泉地として生まれ変わろうとしています。

新しく生まれ変わった咲花温泉

咲花温泉では、平成23年7月の水害を受け、災害に強い護岸改修を進めるとともに、そこでより川を感じられ、川を活かせる楽しい空間づくりを検討してきました。検討にあたっては、新潟県、五泉市、地域の方々、学識経験者が一緒になって協議をしながら計画づくりを進めました。

1 災害復旧工事により、安全・安心で景観に配慮した新しい河川空間が創出されました。
2 平成23年7月の水害により、温泉旅館も道路も冠水しました。
3 新たに創出される河川空間の景観や利活用について、地域の声を計画に反映しました。

川沿いの温泉は日本中にありますが、これだけ川幅が広く雄大な川に面するところはまれです。こんなに川面が間近に楽しめるのは咲花温泉の他にはありません。

それだけに今回の洪水被害の復旧で川とまちが分断されて咲花の良さが失われてしまってはなりません。むしろこの事業はその裏返しを活かすチャンスだと考えました。

法政大学デザイン工学部
福井 教授

かわのまち咲花みどころ発見マップ

温泉街と川辺が一体となった空間を目指して

温泉旅館が連なる上流側の堤防は、水辺と堤防上の両方を人が使う場所として、温泉街と川辺が一体となった空間を目指しています。自然石材料を混ぜたブロックを使ったり、長い堤防が単調に感じられないように床に自然石を埋め込むなど、夕涼みの散歩や水中花火大会の観客席利用を想定して素材や細部を考えています。

また、堤防と旅館の間の空間は、水面を見下ろしながら散策することを考えて様々な工夫を施しています。

上流側

堤防の構造はどうやって決まったの？

平成23年7月の豪雨は、各観測所において観測史上最高水位を記録するほどの規模となり、咲花地区に甚大な被害をもたらしました。

このような水害に対応した大きな堤防をつくるには広い土地が必要です。しかし、咲花地区は川沿いに温泉旅館があって土地が狭いため、コンクリートのL型擁壁などを使った「特殊堤」と呼ばれる構造を採用しました。また、温泉旅館と川とのつながりをもたせるため、階段を設置して人の行き来ができるようにするとともに、人工的な印象を和らげるために植栽スペースを確保したりしています。

整備予定の河床では、自然の風を感じながら食事やコーヒーが楽しめる場所にしたいと考えています。普段の散策や毎年行っている水中花火の観覧席としても楽しんでいただきたいです。

咲花温泉女将の会
林 会長

咲花駅

駅の2階には展望台が設置されており、SLの撮影スポットとなっています。

土堤は、現代では土工機械力で自由に成形できるとともに、1000年たっても崩らないという特長があります。

新潟大学名誉教授
大熊 先生

SL ばんえつ物語号

春～秋にかけての土日祝日に新津～会津若松の区間を運行しています。

春は水芭蕉、桜、チューリップ、ぼたんと花めぐりが楽しめ、阿賀野川の川下りを使って咲花温泉に訪れることもできます。天然温泉、掛け流しの硫黄泉で美肌の湯としても知られています。

咲花温泉女将の会
林 会長

咲花温泉水中花火大会

6月には、全国的にも珍しい水中花火大会が開催されます。水中で花開く約200発の花火が、阿賀野川の水面を幻想的に彩ります。

特殊堤については、川辺に河床が設置できるスペースができたので、今後旅館ごとに堤防や河床をうまく活用して、阿賀野川をより楽しめる空間を作り出してくれることを期待しています。

新潟大学名誉教授
大熊 先生

咲花川湊

咲花温泉の川湊。道の駅「阿賀の里」から船で温泉旅館へアクセスすることもできます。

きなせ堤河床のそばの土堤では、カヤック体験ができます。興味のある方は、気軽にお声掛けください。

咲花きなせ堤協議会
森田 会長

咲花きなせ堤河床

咲花温泉のかわまちづくりのシンボルであり、イベントの拠点ともなっています。

阿賀野川ライン舟下り

船上から雄大な阿賀野川の四季折々の風情を楽しむことができます。また船内では、船頭による案内も聴くことができます。

下流側

土堤について

一般的な堤防は単調な直線が多いのですが、ここでは大きな曲線状の堤防とし、川幅に余裕があるところには傾斜がゆるやかな部分をつくるなどして変化をもたせています。これらは景観上の工夫であると同時に、河川を広げるために掘った土をその場で有効利用する工夫でもあります。

堤防を広げて植えた高木は、特殊堤部から咲花きなせ堤河床を経てここまで歩いてきた方が「あそこまでいってみよう」という目印になればと期待しています。

（写真提供：咲花温泉観光協会）

かわまちづくり

咲花温泉では、咲花きなせ堤協議会を設立し、阿賀野川と共生し、阿賀野川の恵みを受けながら、より魅力的で情緒溢れる温泉地を目指したかわまちづくりを進めています。平成24年に策定した「咲花温泉かわまちづくり構想」は、第15回「人に優しい地域の宿づくり賞」の厚生労働大臣賞を受賞しました。

咲花かわまちづくり構想図

河床

川沿いの各旅館が特殊堤の裏側のスペースを利用して河床の設置を予定しており、将来的に旅館と旅館をつなぎ、咲花温泉全体でイベントなどができる空間づくりが期待されます。

また、河川空間のオープン化を図り民間事業者の利活用が可能となるよう、平成28年1月22日に「都市・地域再生等利用区域」を指定しました。これにより、川沿いの各旅館が主体となって河床を設置したり、水中花火大会などのイベントも実施しやすくなりました。

河床整備イメージ図

土堤の散策道と桜並木

これまでうっそうとした藪や雑木で囲まれていた下流部は、堤防上を舗装したり、沿道に桜などを植えたりして、散策やジョギングをしたくなるさわやかな空間に生まれ変わりました。また、傾斜が緩いところでは、阿賀野川の水辺まで近づくこともできます。